



加藤 元の



と暮らして
みませんか

42

よく変わりますが、「猫の目のよ
うだ」と言いますが、平素から
「猫の目」はよく観察をしておき
ましょう。いつもの目と異なって
見えるときは、何らかの異常があ
ることを表していますので、平素
とは違う理由をはっきりさせるこ
とは大切です。

短頭種では、鼻涙管が屈折して
いるため、涙が鼻にぬげにくくな
っています。また、鼻涙管がつま
ることも多く、そのために涙があ
ふれ出て、特に目頭のまわりが汚
れやすくなります。下瞼の目頭に
目ヤニがないかどうか、またまぶ
たの下がぬれていないかどうかを
確認しましょう。

汚れている場合は、見つけ次
第、眼科に詳しい病院や先生（本

目の異常

汚れたらすぐに病院へ

院にも専門医がいます）に診ても
らしましょう。まず、きれいにふ
いてあげて、それから病院の予約
をとってあげてください。

目の表面の病気には、流涙症候
群、角膜炎、結膜炎、眼瞼形成不
全などがあります。猫はケンカで
よく角膜を傷つけ、角膜炎になる
ことがあります。そんなときは涙
を流し、目を開けることができ
ず、角膜が白く濁ります。

結膜炎の症状では、白眼の部分
が赤くなって腫れたり、平素は見
えない部分が赤く見えるようにな
ったりします。

また、ウイルスで起こるネコヘ
ルペス感染症（伝染性鼻気管
炎）、カリシウイルス感染症やク
ラミジア感染症、ネコ肺炎にとも
なってあらわれてくることが多い
のですが、そのほかにも細菌感染
やアレルギー、外傷、異物などが
原因の結膜炎など、難しいものが
いろいろあります。

眼瞼形成不全は、上眼瞼（上の
眼のふち）の外角（眼じり）が部
分的に形成されていないもので、
先天的な病気で、手術が必要で
す。いずれも、早い段階での診察
が大切です。

今回は目の病気の続きです。
（ダクタリ動物病院広尾病院院
長、日本ヒューマン・アニマル・
ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2005年2月6日掲載》